

「新病院

感染対策上無料個室にもトイレ必須

～議会申し入れに市は「できない、できない」

市立病院整備調査特別委員会 護士のリスクマネジメントの観点で、2月に全室個室で運営して点から無料個室にトイレを設置する病院を視察（たんぽぽだよしない）「協和会として、全室個室（川西センター）では「各室にトイレを見直さないと責任をもつた運営を建設することが有効」と「見直さないと運営ができない」。また「市として、この判断で一致、市議会の総意とこれ以上敷地面積を増やせない」との判断で一致、市議会運営委員会で実現可能性はない」と議会で決定、市に文書で要請しました。要請をことごとく断りました。

これに対して市は、協和会の意向を代弁するような、「できない理由の答弁ばかり。だれのため？」委員からは、感染対策上の必要性を強調。「キセラ川西センター」一床13m²で狭くてできない」というが、加賀市医療センターでは12.08m²で行っている」「全室個室にトイレ設置をすれば共同トイレは必要なく、床面積は工夫で取り組むべき」「各階のリハビリ室（約60のニーズなど病院関係者の声を）が必要なのか。フロアの工夫を取り入れとなつたもの」「で床面積は確保できる」などの工事建設予定地の拡張が不可能な夫も提案しました。

足利市の病院に学ぶ

足利市の病院に学ぶ視察したのは、栃木県足利赤十字病院。感染予防や患者、家族のニーズなど病院関係者の声を聴取。申し入れとなつたもの建設予定地の拡張が不可能なことやこれ以上の経費拡大にならないよう、デザインビルト方式での施設建設への提案で事業者の総意工夫を求めることが、病院環境の充実に特段の配慮を求めてふれています。

筋の通らない答弁

病院づくりは患者の安全・安心の医療環境を整備することが大前提です。担当がいう「個室で経営の改善を図る」「差額ベッド一日400円、年間1億3000万円みでいる」「要請事項の文言」

患者第一が必要



6000円の個室
15.90m²～

賛成の委員からは、「請願趣旨と同じ考え方だ。地域に生きる者として盤石の平和を唱えるべきだ」。川西まほろば会（自民党）の議員からも「國の方針は理解した上で、非核平和都市宣言をした市として賛成する」と発言がありました。賛成は、岡、山下、秋田、磯部、北野各議員。多久和委員長は採決には入りません。

一方、公明党の大崎議員は、「真に廃止するには『保有国』の参加が必要だが、1か国も参加していない。我が国は橋渡しをする現実的な役割を果たすことが必要」と反対意見を述べ。無所属議員の吉富議員も反対しました。

私（黒田）は、この間、平和首長会議への参加、歴代の市長・議長・教育長などへ署名の呼びかけを行い、現在市役所1階ロビーに「ヒバクシャ国際署名」が置かれています。

（最終本会議の結果はお知らせします）

「核兵器禁止条約の日本政府の署名と批准を求める意見書採択についての請願」が3月5日の総務生活常任委員会（8名）で、賛成5、反対2で採択されました。3月26日の最終本会議を経て、国に意見書が提出されます。請願者は、新日本婦人の会川西支部。

委員会では、「本市は、市民の総意として核兵器のない世界の創造を願い、平成元年に非核平和都市を宣言しています。よって当市議会は、国に対し核兵器禁止条約に早急に署名、批准するよう、ここに強く求めます」という文言をいれた「核兵器禁止条約への署名と批准を求める意見書（案）」を作成。26日の最終本会議にかけられます。採択されれば

4月23日（火）10時～

東谷公民館・集会室 12時

「協和会運営による川西病院を検証する集い」黒田みちも議会報告をします。

川西の医療と介護をよくする会

